

令和3年度 第1回佐久市立近代美術館協議会 議事録

日時 令和3年6月11日(金)午前1時30分～

場所 佐久市立近代美術館 視聴覚室

1 開 会

2 あいさつ

3 会長・会長職務代理選出

会長は互選により鈴木順子委員、

会長職務代理は会長の指名により武重直人委員を選出

4 協議事項

(1) 令和2年度事業報告について

事務局：(資料1ページから4ページまでについて説明)

委 員：これまで、収蔵する作品をどのように選定してきたのか。

事務局：当美術館は佐久市出身の実業家(故油井一二氏)からの寄付を母体として開館した。同氏からは、開館後も継続して作品寄贈を受けている。

開館以来現在に至るまで、当美術館には購入予算がなく、寄贈の申出をいただいた作品について館内で協議し、受け入れているのみである。

委 員：油井一二氏が亡くなり、社長が代わってからの状況はどうか。

事務局：交代後も継続して作品寄贈を受けてきた。ただし、当美術館の収蔵庫は満杯に近い状態であるため、油井氏に限らず、ここ数年は作品所有者と協議の上で少数の作品を収蔵している。

委 員：昨年度は開館しているのか臨時休館しているのかわかりにくかった。美術館はどう認識しているか。

事務局：昨年度は、博物館における新型コロナウイルスへの対応が館によって大きく異なり、当美術館でも試行錯誤を繰り返していた。緊急事態宣言下の臨時休館のほか、「長岡國人展」の会期中には、県の感染警戒レベルが5に引き上げられたため、電話による予約優先制を導入し、入館者数制限を行った。いずれも性急な対応が必要だったため、ホームページでの告知や、個別の問合せに応じることでしか周知ができなかった。

事務局：「武論尊原作展」及び「ザワメキアート展」の代替として開催した「植物図鑑展」については、県外との往来自粛が強く求められていた時期の企画であったため、ポスター及びチラシの印刷数を約半数として、配布は県内のみに絞った。

委員：公式ツイッターアカウントを作ることはできないか。信頼できる情報を発信して、フォロワー数を増やしている博物館・美術館は多い。

委員：チラシやポスターによる、通り一遍の広報を見直すべきだ。先日駒場公園内でキッチンカーの集まるイベントがあったが、イベントの参加者は美術館が無料で開館していることを知らなかったようだ。お金をかけて制作した広報物に対して、どのような効果があったかを検証し、より効果的な方法を検討してほしい。

委員：公募団体展もコロナ禍での開催可否決定やその周知に苦勞していたようだ。近代美術館はエントランス周辺が暗いので、開館状況をよりわかりやすくするため、予算のない中でも手作り感のある工夫があると良い。

委員：「植物図鑑展」の観覧者数は、コロナ禍の中でも健闘した数字だと思う。この展覧会のポスターを近隣の様々な場所で見かけたので、ポスターによる周知には一定の効果があったのではないか。展覧会の情報をどう届けるかも大事だが、展覧会の内容がなぜ市民に響いたかを分析してほしい。

委員：コレクション展が無料というのは、旅行会社やデイサービスなどへ来館を呼びかける上で良い条件になる。平山郁夫作品が見られることや、広い駐車場があることなど、良い条件をもっと周知してほしい。

委員：コロナ禍で有線放送を耳にする機会が増え、そこで偶然得られた情報もあつ

た。ツイッター、インスタグラム、LINEなどのタイムラインは、有線放送と同様に、情報が「流れてくる」点が有効だと思う。特にツイッター、インスタグラムの広告は発信する地域を選択できるので、コロナ禍でも活用しやすい。

委員：コロナ禍だからこそできる広報について、皆さんの意見を参考にしてほしい。

（２）令和３年度事業計画について

事務局：（資料5ページについて説明）

委員：「児童生徒美術展」の目標観覧者数が、昨年度の実績よりもだいぶ少ないのはなぜか。

事務局：展覧会期ごとの目標観覧者数は、年度内全体の目標観覧者数を開館日数で除して、1日あたりの平均観覧者数を算出し、均等に割り振った数値である。「児童生徒美術展」は、例年どおりもっと多くの観覧者が見込まれるので、訂正する。

委員：「児童生徒美術展」と同時期に、児童生徒が作品を応募し、展示される展覧会が多数あるように思う。本人も保護者も先生も、どの展覧会に作品を応募したか分かっていないようだった。学校への周知を徹底してほしい。

委員：美術館側の周知に問題はなかったと思う。市内の小中学生が作品を出品する展覧会は、2学期に「長野県児童生徒美術展（県主催）」と「今を生きる子ども絵展（信濃教育会主催）」、3学期に「児童生徒美術展」とツルヤの「全国児童画コンクール」、それと学校独自の取り組みがある。応募や展示の時期はそれぞれ異なるが、学校側が混同しやすい。

「県展」でも地方入選までの作品は、展示されずに学校へ戻ってきてしまう。応募してもすべての作品が展示されるとは限らないので、それを子どもたちに伝えるのが難しい。

事務局：「児童生徒美術展」は、もともと学校選抜の作品すべてを展示する展覧会であったが、寄付金を受けてコンクール形式に改めた。コンクール形式となったため、従来と異なり展示されない作品もある。各校の先生方にも承知していただけるように努力する。

委員：最近、近代美術館の取り組みがマス媒体で紹介される機会が増えてきた。事務局の周知意欲は以前よりも上向いているように思う。

オリジナリティを追求するよりも親しんでいただける美術館になってほしい。

委員：「佐久平の美術展」で高校生が入賞したとき、遠藤彰子先生が声をかけていた。美術選択者だけでなく、全ての高校生にこうした貴重な機会を共有できたらと思う。

委員：公民館でも利用者の高齢化が課題となっている。若年層にも親しみを持って来館してもらいたい。美術館に子どもたちを呼ぶための方策として、最初はイベント的な取り組みになってしまうかもしれないが、総合的な学習の時間の「地域を知る」に絡ませることが考えられる。

委員：市内の全小中学校が近代美術館へ子どもたちを連れていく機会を設け、油井一二や平山郁夫について知ることができると良い。小中学生のうちから、故郷に素晴らしい美術品があることを自覚できる。

委員：中央の公募団体展で東信地域の美術館の話をする、サントミュージゼ（上田市立美術館）や心の花美術館のことは知っているが、近代美術館のことは知らないと言われる。サントミュージゼと近代美術館の差について考えているがわからない。PRが不足しているだけだろうか。

委員：上田地域では昔から、地域の方々が熱心に文化活動をしている。文化の普及に一番大切なのは教育だと思う。教育の現場が積極的に動くよう、市議会議員などにも働きかける必要がある。

委員：サントミュージゼは美術館とホール（劇場）、市民ギャラリー等の複合施設で、設置当初から次世代の育成を目標としているため、小中学生との関わりを大切にしてきた経緯がある。各分野で積極的なアウトリーチを行っているが、それが直接施設の利用に繋がっているかどうかは分からない。学校が積極的に動かないのは、上田地域も同じである。

佐久市では、小学校3年か4年の社会科見学に対して、市がバス代を負担している。このルートに組み込める可能性があるが、トップダウンでは根付かない。近代美術館が「この展示は子どもたちに見せたい」という希望を出し、教育委員会として連携が取れば有効になるのではないかと。

委員：若い人や子どもたちに足を運んでもらうため、出された意見を活かしてほしい

（３）令和４年度事業計画について

事務局：（資料６ページについて説明）

委員からの意見は特になし

（４）その他

事務局：（資料８ページについて説明）

委員：財団等の修復助成を取ることはできないか。

事務局：採択事例を見ていると古美術（近世以前の資料）が多く、当美術館の収蔵作品に対して助成を受けるのは困難である。

委員：受付を外部委託しているとあるが、どこに委託しているのか。

事務局：シルバー人材センターに業務委託している。休館日は業務がないため、わずかながら人件費を節減できる。

委員：入館料は公金扱いか。だとすれば、観覧料を無料にすることは問題にならないのか。

事務局：現在（試行期間）は議会に説明した上で無料としている。この先も観覧料を無料にするならば、条例を変える必要がある。

委員：一度条例を改正して無料とした後にふたたび有料に戻すことは可能か。

事務局：制度上可能ではある。ただし条例を変えるには議会の承認を得る必要があるため、一旦定めた方針を180度転換させるのは困難である。コロナ禍のため、観覧料無料化の効果を検証できる有効なデータを取ることができなかった。試行期間を延長するか、あるいは一旦終了とすべきか、判断を迷っている。

委員：開館時間短縮は、市民の鑑賞機会をそぐ結果となっていないか。

事務局：朝の9時30分ごろは入館者が少ない。またこの地域では夕方になると外出する人が少なくなるので、朝夕30分ずつ短縮で試行している。

事務局：第2回協議会は、例年は1月ごろ開催していたが、次年度の予算要求より前に
皆さんのご意見を伺いたいので、今回は10月に開催したい。

5 閉 会